

☆詩の種類

- ① 文体（書かれ方）による種類
 ① 口語詩…今のことばで書かれた詩
 ② 文語詩…昔のことばで書かれた詩

② 形式による種類

- ① 自由詩…自由なリズムの詩
 ② 定型詩…一定のリズムがある詩
 ③ 散文詩…普通の文章のような詩

③ 内容による種類

- ① 叙情詩…作者の気持ちを書かれた詩
 ② 叙景詩…自然の風景や景色を、見たままに書かれた詩
 ③ 叙事詩…歴史上の事件や人物について書かれた詩

おまけ

「この詩の形式は？」と聞かれたら、①と②を合わせて「口語自由詩」「文語定型詩」などと答えましょう。

☆詩でみられる表現技法

【あるものを他のものになどえる方法】

① 直喩法（明喩）	「まるで…」のようだ」「まるで…みたいだ」などをつかって、たとえる方法。 (例)「私の心は青空のように晴れわたっている。」
② 隠喩法（暗喩）	「ようだ」「みたいだ」をつかわずに、たとえる方法。 (例)「人生は一本の蓮だ。」
③ 擬人法	人間以外のものを人間のようにたどえる方法。 (例)「小鳥が歌う。」「風がささやく。」
④ 擬音語（擬声語）	音をあらわすことば (例) ざあざあ、わんわん、どんどん
⑤ 擬態語	様子や状態を言葉で表現したもの…擬態語 (例) すすすべ、きらきら、どんより

【あるものを強調する方法】

① 例置法	言葉の順番を入れかえることで、意味を強める方法。 (例)「来た、先生が。」
② 反復法	同じような語句を何度もくり返す方法。 (例)「寒い、とてつもなく寒い。寒いようもないほどの寒さだ。」
③ 省略法	続くべきはずの言葉を省略する方法。 (例)「誰にでもチャンスはある。もちろん君にも。」
④ 体言止め	文の最後を名詞（もの名前など）で終わらせる方法。 (例)「彼がくれた美しい花束。」「クラスみんなで走った、全員リレー。」